

おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー部報第 4 号 (5 月 11 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

GW近辺の公式戦レポート

GWを核となる 5 月頭の前後の長期間のものにとらえると、公式戦は以下のように組まれていた。

- 4 月 30 日 (土) M リーグ第三節 VS 山本学園 11:05~@上山明新館 G
- 5 月 1 日 (日) Y2B 第二節 VS 山本学園 A 16:00~@白鷹町東陽の里 G
- 5 月 3 日 (火) Y2B 第三節 VS 米沢工業 10:00~@米沢工業 G
- 5 月 7 日 (土) Y2B 第四節 VS 山形南 10:00~@山形明正 G

5 月 2 日 (月) と 5 月 6 日 (金) は勤務日でしたが、部報作成の余裕がなかったので、まとめて報告致します。

まず上記四試合の中でも最重要の試合であった 4 月 30 日の試合から。**なぜ最重要かと言うと、この試合に勝利すると山東の県総体出場が決まる**のです。高校サッカー最大のイベントは冬の高校サッカー選手権ですが、その県予選 (山形では 10 月) まで三年生が引退せず残ることの少ない山東サッカー部の最重要の目標は、県総体優勝=IH 出場¹。**県総体優勝を目標にするのは勝手だが、その前に県総体に出場できなければ話にならない**。ということで、重要な試合をいよいよ迎える。

さあ、お互い村山地区リーグ (M リーグ) C ブロックを 2 連勝で最終節に臨む山東と山本との決戦。場所は上山明新館高校。久しぶりに公式戦をする会場。昔の記憶をたどると、2010 年の Y1 リーグ鶴岡工業戦で 2 対 3 で敗れたことをかすかに覚えている。内容は悪くなく、負けはしましたが、その後の県総体に向けて好発進との印象を持った (決して負け惜しみではなく)。その県総体では、決勝まで勝ち進む惜しくも羽黒に敗れ、いまでも「何とかならなかったか (どうにか勝たせることができなかったか)」「あの時間帯で交代カードを切るべきだったか」ふと考えてしまう。閑話休題。ともかく、明新館での公式戦は久しぶり²。山本はスピードのある FW と技巧派の MF がおり、高い攻撃力を誇るイメージ。試合にはもちろん、その前の公式戦同様、**清野総監督 (後援会名誉会長) と後藤報道局長、そして総監督と同期で山東の勝利で病気療養を完成させようとする工藤先輩がいらっしゃる** (ちなみに、これ以降も皆出席の御三方ですので、ご紹介はこの一回にさせていただきます)。そして、この試合の重要性をご存じの**岸後援会会長**もいらっしゃる。また、これまた**もちろん、多数の保護者の方々 (保護者 OBOG の方も含め) が応援にいらっシャって下さる**。これも紹介は

¹ もちろん近年リーグ戦 (山形県リーグで言うと Y リーグ) も重視されるようになってきますし、山東も Y1 への昇格を密かに狙っております (公式には最低でも残留が目標⇒山形県サッカー一年鑑 2015 の山東のページをご覧くださいとわかります⇒2・3 年生部員には全員に配られています)。しかし、やはり「全国」に行きたいのです!

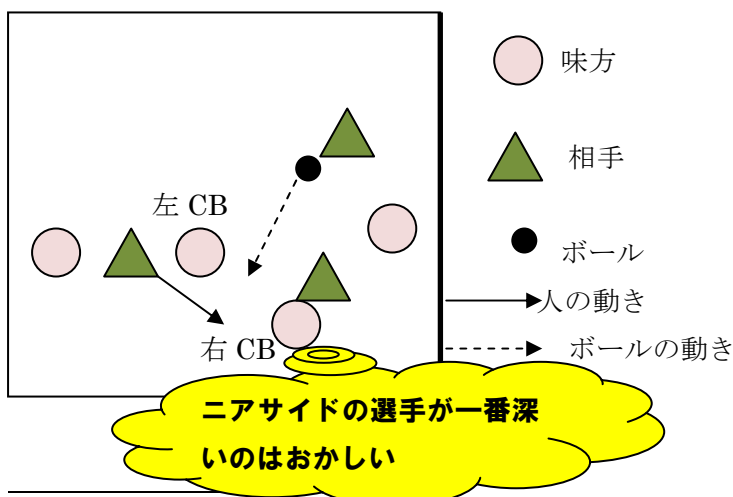
² より正確には、昨年春卒業したコウタの代において 1 年生大会 (2012 年 11 月 23 日) で利用させてもらったっきり、利用していないと思われる。もちろんこの 1 年生大会が公式戦だとして。

これ一回にさせていただきますが、次に紹介する米工戦ではホームの米工の保護者よりも多かった、それくらい素晴らしい応援を頂いている、と申し添えておきます³。さて、試合が始まると、一進一退。どのような試合になるかとハラハラしていると、よく訳のわからない形から**3年生FW サンペー**が抜け出しシュート、それが先制点となり、開始早々に均衡を破る。その後も山東ペースで進みますが、徐々に守備の甘い対応が目立ち始め、山本の速い攻撃を加速させてしまうと、流れが悪くなり、劣勢に。その悪い流れの中で、個の打開を止められず失点してしまい、**結局前半 1対1**。一時的に攻められるのではなく、「悪い流れ」を作ってしまう／作られてしまうあたり、まだまだ緩い。後半は、山東攻勢のまま時間が過ぎ、**結局後半 3得点して 4対1で山東の勝利**。後半のワンサイドぶりを見るに、前半の後半は何だったんだ？と首を傾げてしまう。**要は安定した力がまだまだ足りない**ということ。細かく言うと、ヘディングのミスが悪い流れを加速させた気がする。**1年生フトシ**が右SHで先発しましたが、ほぼGKと1対1の大チャンスを上打ち上げてしまい（古い言葉でいえば「宇宙開発」してしまい）、チャンスをフイに。今後冷静に決められる選手になってもらいたい。

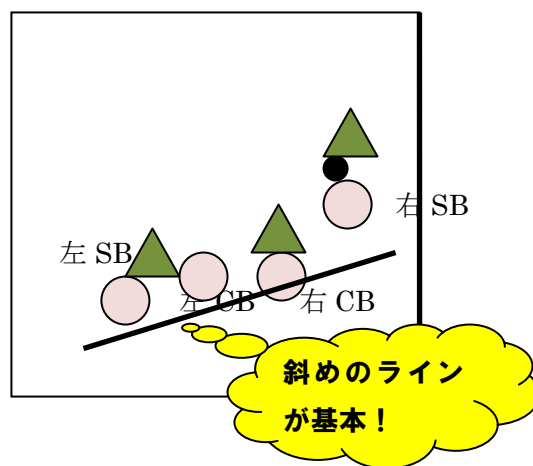
さて、翌日、山本との二連戦！ のはずでしたが、白鷹町が雷雨のため、午前中から試合の中断が続き時間が押し、施設を18:00までしか借りていない関係から、最終戦（第4試合）ができない見込みとなったため、延期に。ただ、その前の第3試合 Y2B 東海大山形 B 対酒田西戦（14:00 開始予定）は実施されることに。**2年生ザキヤマ**と私は、雨に降られながら15:00過ぎからの試合の帯同審判をしました（@白鷹町）。故障中で練習ができないとはいえ、ザキヤマは白鷹まで行って副審をするオファーを嫌な顔せずを受けてくれました！ **ザキヤマありがとう！！ 君は本当に頼りになる**（not お世辞 but 本心）。

そして5月3日米工戦。山東は、Y2B 酒西戦もMリーグ山本戦も、全体としてみれば良い内容で勝利しており、自信を持って試合に臨む。相手のホームとなるが、山東も酒西戦で来たばかり、そして勝ったばかりであり、特別な意識はない。試合が始まると、またもや早々にサンペーが抜け出し、シュート。しかし、前のようにはうまくは行かず。そして米工、GKのキックが飛ぶ⁴。加えて米工、しっかりした競り合いができる。**山東はGKのキックを跳ね返せず、キックされるたびに深く攻め込まれ、流れを持って行かれる**。そうこうしているうちに、ディフェンスラインの乱れ（【図1】）を見事に突かれ、スピードある相手FWに

【図1】



【図2】



³ またこの試合は、この春卒業したタイチ（新潟大学1年）とシャモジ（山形大学1年）も駆けつけてくれました！

⁴ 飛ぶというか、普通レベルに飛ぶだけなのですが、ハレルを始め、Y2レベルのGKで普通レベルのキックのできる選手が少なく、飛ぶ印象を持ってしまう。

抜け出され、冷静なフィニッシュを許し、先制を許す。ディフェンスラインは通常【図2】のように、ボールサイドが一番高く、そこから斜めに深くなる（低くなる）斜めのラインを形成する必要がある。もちろんどこまでラインを深く形成するか（逆サイドのSBをCBよりも深くするか）はチーム戦術の問題だが、【図2】を前提にすれば、右SBが抜かれても右CBがカバーにいけるし、その右CBが抜かれても左CB・・・というように、より深い位置にいる選手がカバーにいける（もしボールホルダーと対峙している右SBが一番高い位置にいるとどういうことになるか考えてみると、斜めのラインの意味がよりわかります）。それを**つるべの動き**（ポジション/ライン）とか**シーソー**などと呼ぶことがあります。しかし、失点シーンは、相手FWに引きずられてかニアサイドの右CBが一番低い位置を取ってしまったため、左CBの裏のスペース（CB間のギャップ）を作ってしまう、そこを的確に使われた。ちなみに後述する2失点目も、斜めのラインをしっかり形成していなかったため、相手FWが（ボールと逆サイドにいた）左CBの裏のスペースにオフサイドにならずに走り込み、その動きに左SBが付いていけずに、フリーでシュートを許した。要は、その動きを予測し対応する（付いていく or ラインを上げて/下げずにオフサイドを狙う）だけでなく、**首を横に振り続け声を掛け合いラインをそろえ続ける必要があった**（【図1】を例にとれば、左CBと左SBは右CBと同じ高さまで下がる必要があった or 右CBはポジションを下げずにラインをキープ/ステイする必要があった）。

ということで、巧く崩され失点する。その後、山東の連携プレーの中からこぼれ球を**2年MF アダチ**がうまく流し込み、すぐさま同点に追い付くも、上述の形から2失点目を喫する。山東はGK等からMFとDFの間（バイタルエリア）に蹴られるロングボールを全く跳ね返せず、米工のダイレクトな攻撃を常にまともに受けている。①ボランチが下がりながら苦しい体勢でヘディングすることを余儀なくされているのならCBが前方向に移動して跳ね返せばよいし（ただしヘディングし損ねるリスクはある）、②そもそも毎度ボランチは苦しい体勢になっているのなら最初のポジションを下げれば良い、③そして他のプレーヤーはうまくヘディングできない（かぶる）ことを前提にこぼれ球を予想すればよいもののそれができていない。**米工は一人ひとり競り合いの対応が粘り強いし、空中戦も避ける（人任せにする）ような選手がいない**。対する山東は、相手にくつつくばかりで、ボールの軌道から自分でヘディングのポイントに入ることが全くできていない。しかも、後方から前向きに助走しパワーを持ってヘディングすることができていない。すなわち、落下地点に早く入り過ぎ。競り合いの対応が悪く流れを全く作らせてもらえない前半。さらに1失点し、**結局1対3で折り返す。やはり県新人準優勝の米工、強い！** 今シーズン、前年の成績に見合わない内容・結果が続いておりましたが、何の何の。

さあ後半。この試合、次の点がどちらのものになるかで天国と地獄の差あり。山東にとって次の失点はこの試合ジエンドを意味するし、1点差に追い付くゴールが決まれば、流利的には山東となる。しかし、守備の甘さが複数重なり、絶対にやってはいけない失点を後半早々にしてしまう。**この4失点目、米工の中盤のキープレイヤーが高い位置でボールを奪い、ドリブルしそのまま素晴らしいフィニッシュで逆サイドに突き刺す、敵ながら天晴れのゴールでした**。ということで、**この試合、ジエンド**。しかし、試合を投げられる訳はない。ひたむきにまず1点を取りに攻勢を仕掛けると、PKを獲得し、2対4に。押せ押せムードではあるが、まだ2点差。決定機を複数回外し、やはり厳しいか、との心境になるも、後半40分過ぎにボランチから左SHにポジションチェンジした**2年タイセー**がFWユートからの横パスを受け冷静に流し込み、3対4に。**タイセー、米工Gとの相性いいね！** いよいよ山

東押せ押せ。しかし、時間はもうない。勝てなくとも最後まであきらめずに戦うことに意義がある、などと考えていると、故障明けで1カ月半ぶりに試合に交代出場した**3年FWカズマ**がペナルティエリア手前でファールを受ける。「あまりにも見え見えのファールをするのはサッカー選手じゃないでしょ～(真のサッカー選手ならもっと巧妙にファールをしないと)」などと相手チームのファールながら憤っていると、そこで得たFK、**ボランチの2年カイト**がクイックでサンペーへ配球。そしてサンペー、やはり落ち着いて流し込み、**アディショナルタイムでの同点弾。まさかの4対4**へ。もちろん喜ぶ山東、落ち込む米工。そこから「まさか5点目か」と思わせる攻撃を見せるも、さすがにそれは出来過ぎ。引き分けで終了のホイッスル。**山東にとっては、誤魔化したような試合でした。が、最後まであきらめなかった選手をまず褒めたい。しかし、4失点することとなった試合運び・競り合いの対応・ディフェンスラインの形成等々、反省点のメチャクチャ多い試合でした。**「競り合いで逃げない米工さんと県総体前に当たり経験させてもらって本当に良かった」と本気で思いました。

5月7日はY2B山南戦。山南はY2B第2節酒西戦こそ相手FWにしてやられたものの、第1節明正A戦では3対0で一蹴している。鬼軍曹Sコーチの下、以前の山南に見られたような「緩み」がなくなり卒なくなっている、そんな印象。少し前の「バルサミコサッカー」⁵は当然影を潜めている。この試合から、**とうとうFWに3年カズマ先発復帰**。3月末の足首靭帯断裂からようやく。ブランクを克服できているか。雨天時の人工芝、スリッピーなピッチ状況をふまえたプレーが望まれる。試合が始まると、一進一退ながら山東悪くない。山南はフィジカルあふれるFWに勝負させるべく、早めにダイレクトに(DFライン裏ではなく)バイタルエリアにボールを入れてくる。バイタルエリアで起点を作って力を溜めてから裏に抜け出そうという作戦か。米工戦を観れば、当然その作戦に行きつくだろう。対する山東は、米工戦以降、蹴られたボールに対するヘディング練習を取り入れたり、バイタルエリアへの意識を高めたり、改善の努力はしてきた。**山南はボランチ・CBがヘディング非常に強く、山東 GK ハレルのボールは常にヘディングで跳ね返される**⁶。ゆえに試合の多くは山東サイドで進むが、**この試合両SBヒロ&リキが特に安定した守備をしており、頼もしく感じる**。要は、攻められているようで崩されてはおらず、危ないシュートも全く打たせていない。試合はしっかりコントロールできている。あとは攻撃を実らせるのみ。すると10分も経たない状況で、**3年FWユート**のクロスが相手のハンドを誘い、山東PKゲット。そして難なく決め、早くも先制。カズマはなかなかヘディング勝てず、ターゲットの役割は全く果たしていないが、得意の馬力で攻撃を力強くしているし、何よりボランチに「復帰」した**3年サンペーと2年カイトのボランチコンビが攻守に機能している**。前半の中盤、セットプレーからカイトが絶妙な配球で**2年ベジータ**にボールを渡し、ベジータがワンタッチでコースを変え、追加点ゲット。このプレー、山南がワタコーやシュン、カズマなどの大型選手に気を取られているうちに、山東一の小兵がするするとフリーになり、ゴールまで射止めた。素晴らしい得点で、**結局2対0で折り返す**。

後半も山東攻勢と言っている。山東サイドで試合が進む時間がどちらかというと長いかもしれないが、得点のチャンスを与えてはいない。後半途中にカズマと交代で入った**3年タクオ**も、豊富な運動量とアジリティで持ち味を発揮している。結局FKから**3年シュン**

⁵ 平成25年度部報第23号などをご覧になってみてください。

⁶ ということは、低いボールを蹴る必要があるということ。遠くに蹴ることに一生懸命になるあまり、そのように頭を働かせられない選手になってはいけない。

のスライディングシュートにより加点、最後にはユートがいったん転んで相手を惑わすドリブルからシュートを決め、**終わってみれば 4 対 0 の圧勝**。後半の後半、4 得点した後は山東のバタバタした展開が続き、山南に決定機を与えてしまったものの、シュートはゴールマウスをとらえきれず。最後だけは反省すべきでしたが、山東からすれば結果も内容も良すぎる圧勝劇となりました。**正直、山南には毎回これくらい勝っておきたい。だって、山東の方がサッカーで圧倒的に強ければ、山東か山南かで進学校への入学を悩んでいるサッカー少年たちが、「サッカーするなら山東だよ」となる。近年山東のサッカー部員の人数が少ないのは、そのような「憧れの高校サッカー部」に山東サッカー部がなり切れていないということ。**ともかく、たまたま点が入っただけ、たまたま失点しなかっただけで、山南との差はあまりない、とも言えますが、そのたまたまが力だと考えれば、自信にしている勝利だったのではないのでしょうか。

ということで、**GW を 2 勝 1 分け 1 延期試合で乗り切りました。応援ありがとうございました。**今週末はいよいよ地区総体です。山東は 4 月 30 日の試合の勝利により県総体出場を決めており、今週末はプライドをかけて戦うこととなります。**今シーズン初の格上 Y1 所属チームとの対戦**となります。応援よろしくお願い致します。会場は野球場建設中の落合の山形市スポーツセンターですので、駐車場がとても狭くなっております。当日はソフトテニス等他の競技もあり、駐車場は混雑が予想されます。馬見ヶ崎河川敷駐車場等をご利用になる等の配慮をお願い致します。

**5 月 14 日 (土) 地区総体決勝トーナメント一回戦 VS 東海大山形 13:00~@ スポセン南
それに勝つと**

**5 月 15 日 (日) 同上準決勝 VS 城北と明正の勝者 9:30~ @ スポセン北
それに勝つと**

同日 決勝 13:00~@ スポセン南

新入部員歓迎会・総体激励会盛大に挙げる

4 月 29 日 (金) ホテルメトロポリタン山形にて保護者会主催の新入部員歓迎会・総体激励会が行われました。部員全員参加、そして**部員の数をゆうに上回る保護者の皆さま**のご出席、そして後援会からは**清野総監督 (後援会名誉会長)・岸会長・後藤報道局長・芹川トレーナー・橋本歯科医・齋藤 GK コーチ**の出席を賜る。顧問は今野とド忘れで遅刻しましたが滑り込みセーフ?の志村の 2 名参加。思えば、ちょうど一年前のこの会に、少しやつれた佐竹前校長 (2015 年 9 月 23 日逝去) が参加して下さったのでした。様々な思いよぎるこの会、鈴木保護者会長、清野総監督、岸会長、そして今野のスピーチの後、乾杯へ。歓談が進む中、1・2 年生の余興へ。**今年の 2 年生、自分たちはあまりやらなかったし (今回も) やらないのに、1 年生には厳しく申し伝えていたようで、1 年生の芸が素晴らし過ぎる。**まず**米沢出身のカイチのバイオリン独奏**に始まり、各種漫才・コントで出席者を笑いの渦に。特に、**モンテ村山出身のタカヒラ**は、プロのようなしゃべり様。後に「タカヒラ、お前漫才うますぎないか」と問うと、「これまでも結構やって来たんで」との返答。「えっ、モンテでもこういう芸やらされるの?」と意外に思い聞くと「ハイ」とあっ気ない。「モンテもなかなかやるの～」と思わされました。ともかく **1 年生諸君、合格!**

2 次会も賑やかに行われました。そこで顧問から**齋藤 GK コーチのおめでたい発表**があり、**圭君**との名前が公表されました。私はその命名聞いたとき、「いろいろ思い出すからやめろ」と忠告したんですがね～。いや OB が悪いのではなく、教員をしている人間の一種の職業病みたいなもので、生徒と同じ名前をつけたくない（生徒のイメージを引きずりたくない）思いがあるんですよ。悪く思わないでね、コンタ君・ウスバ君（ともに山形 FC だ）！！ということで、**部員ともども激励され、元気を頂戴しました。保護者会の皆さま、ありがとうございました。**

♪報告♪

現部員や保護者の皆さまはわからないかもしれませんが、平成 24 年から 27 年始めまで、約 3 年トレーナーとしてお世話になった**名和さん**（せりかわ整骨院）から、先日連絡がありました。トレーナー資格はもともと持っていたものの鍼灸の資格取得のため地元の東根に住みつつ仙台の予備校に通い、その合間に山東の練習・試合・遠征に帯同して下さった方で、資格取得後 27 年より関東の治療院にお勤めでご活躍されておりました。どうやら名和さん、国際的にご活躍のようです！

今年 2 月「アーティストフットボール」（各国の音楽家等がサッカーで国際交流をはかり社会貢献活動も行う企画）の**日本代表トレーナー**となりイランに行ってきたそうで、5 月にはロシアに行くそうです。名和さんに関わるサッカー関係者で名和さんを絶賛しない人間はいないほど、素晴らしいトレーナーだった名和さん。ドイツなどの海外のクラブへの就職も視野に入れているそうで、これからの活躍が本当に楽しみです。

山東 OB ではありませんが、山東から羽ばたいた方として、心の底から応援しています！ この思いは、名和さんに関わった OBOG 共通のものです。頑張れ名和さん！！